

昔のロータリーと地区大会

小樽 西 信博

一九三二年（昭和七年）十二月に札幌R.C.が、翌年十二月に小樽R.C.が設立された。

昭和十二年、札幌で当時の第七〇地区の全国大会が開かれている。札幌のチャーターメンバーは三十人で初代会長は、もと北大総長の佐藤昌介男爵で八十歳、二代目会長の平塚直治は私の祖父である。最近、当時の資料を入手したので紹介する。

この三十人は当時のエリート集団で医者は北大教授の木下良順、大野精七の二人。その後札幌市立病院の林院長、北大の真崎教授、柳教授などが入会している。当時の入会金は二十円で年会費は六十円であった。

小樽のチャーターメンバーは三十八人、の中には医者は一人もいない。当時北海道歯科医師会長であった島田作夫氏が入会

されている。地元の実業家と大会社の支店長がほぼ半々で初代会長は伴房次郎氏。例会場は越中屋ホテル。メークアップのために札幌に出席するのは大変だったし、札幌の雰囲気肌に合わなかった方も多かったようである。

当時は全国一区だったので地区大会はそのまま全国大会であった。第一回から京都や大阪、東京など大都市での開催が続いた後で札幌クラブもかなり苦労したらしい。大会は昭和十二年五月十四日にグランドホテルでの前夜懇談会、十五日豊平館で年次大会、三井別邸での園遊会、グランドホテルで懇談大晩餐会と続き、十六日は市内観光、ゴルフ大会が札幌ゴルフ倶楽部月寒リンクスで三十六人が参加して行なわれている。その後の観

光は登別、層雲峡、阿寒など。大会参加者は会員、家族総計四八四人、うち道内二七三人、道外二一人である。R.I.会長代理は米山梅吉氏であった。登録費は会員、家族とも十円、ゴルフは六円。汽車賃は東京から北海道巡り乗車券が二等で五十円、割引がある。飛行機は東京札幌間六時間、六十六円で四人が利用している。汽車は特別のロータリー列車が運行された。

たロータリー列車が札幌で大歓迎されたのは勿論で函館本線のサービスが非常に誉められたのも面白い。

上野発五月十二日、二十三時五十分、十三日、十九時四十分青森着、浅虫温泉で小休止、二十三日四十分出港、十四日、七時函館着、長方部より北海道名物鱈列車一両の連結があり、即売で多くの売上げがあった。十二時三十分小樽着、小樽のメンバーが沢山乗り込み、芸人の社内放送が人気を呼んだという。

大会の記念写真は、自動回写式写真機によるパノラマ集合写真で幅十四センチ、長さ一四〇センチの珍しいもの、担当の札幌R.C.下野会員の努力にもかかわらず、撮影が難航し何時間もかかったが、会員四三六人はロータリーの歌をうたいながら、おとなしく待っていたという。

こうして東京から一三〇人の団体が二割引きで札幌まで約三十六時間かけて到着。札幌の接待委員は青森まで迎えにでかいている。十三時二十八分に着い

た。大会総費用は七五九二円六十四銭、赤字が六二八円三十四銭でこれは札幌R.C.が負担、その他にお土産として札幌クラブからアイヌ厚司織バッグを贈っており、当時の札幌の会員五十一人は三十円の臨時会費を出している。大会への小樽R.C.会員の協力も誉められており、出席率は小樽九十六・八七％、札幌九十三・八八％であった。この頃の道内のロータリーはほかに函館、旭川、帯広、室蘭、釧路であった。全国のクラブ数が三十

三、会員総数二五〇〇人の時代のことである。精神病院・北海道